

すごろくで学ぶ江戸幕府の職制

—明日からできる歴博利用を目指して—

千葉県立船橋芝山高等学校 竹中 理

1. 実施学年及び教科・領域

高等学校第3学年日本史B選択3クラス 地理歴史科・日本史B

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名

第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

高等学校学習指導要領・地理歴史編日本史Bの「2 内容(3) 近世の日本と世界 イ 近世国家の形成」には「幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる」とある。また、「3 内容の取扱い(2) ア 歴史の説明」には「資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を段階的に高めていくこと」とある。そこで、単元の学習にあたり、江戸幕府の職制を取り上げ、江戸時代・明治時代の出世双六を資料として活用する。そして、双六を実際に行う体験を通じて江戸幕府の職制の特徴に目を向けさせ、近世国家の特色や社会の仕組みについて考察させることをねらいとした。

②単元の目標

- 幕藩体制の成立と近世社会や文化の特色について意欲的に追究する。(関心・意欲・態度)
- 幕藩体制の特色や社会の仕組みから課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。(思考・判断・表現)
- 幕藩体制の成立と近世社会や文化の特色に関する資料から情報を読み取ったり、図表などにまとめたりする。(資料活用の技能)
- 幕藩体制の成立と近世社会や文化の特色についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付ける。(知識・理解)

(3) 博物館との関連

①活用方法

「非来館型活用」

②活用資料

- 「御大名出世双六」(資料番号 H-1330-6、幕末官職出世双六)
館蔵資料画像データベースで公開されている。歴博第3展示室「近世」の「都市のしくみ」の江戸城をとりまく武家地の項目でも展示中である。寺子屋れきはくで体験できる時もある。
- 「明治立身双六」(資料番号 H-22-3-146、錦絵コレクション)
館蔵資料画像データベースで公開されている。

※どちらも、歴博に依頼して画像を出力(印刷・画像送付)していただき、教材として利用した。

この資料に限らず、授業での歴博の画像の利用は、学校対応部署が相談に応じて下さるので、手続きも容易で利用しやすい。

○「御大名出世双六」について

江戸後期に作成された武家の出世を主題にしたとび双六である。作成時期・作者・版元は不明である。歴博館蔵資料や東京国立博物館資料等に複数あるが、マス目に描かれている役職や「上（上がり）」の位置は資料ごとに異なる。今回用いたものは、右上に「上」が配置され、「上」に近いところに高い家格が必要とされる要職が描かれている。マス目には、その役職に就任した者が送る付届け先（役得の送り先）とその量が記されているので、役職間の関係性もわかる。しかも、単純に地位が上昇していく仕組みではなく、降格や処分を意味する設定がマス目に組み込まれている。（高久智広氏によると、「家格が重視される職制の中で武家がどのように関係を築いて出世の機会を得ていたかを、遊びを通じて武家の子弟らが知ることができる。」とある。また、大久保純一氏によると、「欄外に禁売買とあるのは幕府当局を慮ってで、実際には販売されていたのではないかとある。」とある。）



○「明治立身双六」について

明治期の青年の生き方を主題としたとび双六である。雑誌『太陽』の付録として1898年に幸田露伴（『五重塔』の作者）によって考案されたものである。この双六は、振り出しの目で「貧」・「富」のマス目に分かれる（運命が分かれる）ものの、どちらのマス目からも「立志（志を立てる）」のマス目に進むことが可能である。「立志」では、「文」・「師」・「商」・「武」・「工」・「農」のいずれかのマス目（職業）を選ぶことができるが、どのマス目を選んで「多欲」・「怠慢」・「墮落」・「悔悛」・「僥倖」か「守節」・「自得」のマス目に進む。つまり、その後の本人の生活の仕方次第で人生が決まる。さらに、「上り」に進むことができるマス目は、「自得」・「積善」だけである。このように、貧富に関わらず、志を持って身を立てることの大切さを伝える双六であり、自らの意思で人生を切り開くことができる時代であることを表現しているものである。



(4) 指導観

勤務校の教育課程は3年次より文理の類型が分かれ、日本史Bは3年次文系選択者の選択科目である。大学・短大進学者は約7割で、一般入試の受験科目として日本史Bを利用する者は、クラスの中で5名～10名弱と少ない。生徒の2学期からの取り組み方には温度差が生まれるが、ほとんどの者は教師の働きかけにも良く反応して真面目に授業に取り組む。しかし、日本史に対しては暗記科目としての意識が強い。

江戸幕府の職制は、近世国家の政治や社会の仕組みに関わる基本的な事項である。今までは、〈知識・理解〉の観点からの取り扱いをしてきた。しかし、資料を見て考察させたり、協同学習をさせたりするなど、授業方法を工夫して他の三つの観点も重視する取り扱いをすることが、多様な生徒への対応にもつながると考え、双六を用いる実践を行った。

3. 指導計画（単元全体で9時間配当し、その中の4時間扱い）

平成27年度に実施した際には、事前の役職説明と事後指導が不十分となった。そこで、平成28年度は0.5時間で事前指導（役職の説明と双六の観察）、1時間で双六の実践、2.5時間で事後指導（生徒同士の意見確認、考察）の形式で計画して実施することとした。

(1) 1時間目（25分担当）

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5分	○幕府の大名統制に関する説明を聞く。	
展開	15分	○資料「御大名出世双六」が印刷されたワークシートを受け取り、作業をする。 ・資料を観察して気づいたことを記録する。 ・教師の説明を聞き、双六のマス目に書かれた役職名を記録する。	□黒板に大きな図版を掲示して、生徒がイメージを持ちやすくする。 □双六のマス目と比較させながら、主な役職とその職務について説明する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が知っている、または聞いたことのある役職に印をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ■幕府の役職やその主な仕事内容について把握できたか。〈ワークシート、知〉 ■興味をもって観察し、疑問点を記録できたか。〈ワークシート、関〉
まとめ	5分	○次回の予告を聞く。	

(2) 2時間目 (短縮 45分授業)

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	10分	○班を編成し、ルールの説明を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・3～5名で一班を作る ・班の代表者は、双六道具一式と班員のワークシートを受け取る。 	□双六のルールについて、黒板の図版を利用して説明する。 ■双六のルールを理解しようとしているか。〈観察、関〉
展開	30分	○「御大名出世双六」を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・説明を受けたルールに従って双六を行う。 ・止まったマス目(役職)を適宜ワークシートに記入する。 	□速やかに双六が始められるように援助する。 ■班員と協力して双六に取り組むことができたか。〈観察、関〉 ■双六を行う中で役職名を探せているか。〈観察、技〉 □机間を巡り、生徒達の状況を把握する。質問に答える。
まとめ	5分	○本時のワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・終了時の自分のマス目と所持金、一緒に実践した班員の終了時のマス目を記録する。 ・自分の出世の軌跡を確認する。 ○双六の道具を片づける。 ○次回の予告を聞く。	■双六を行い、お金のやり取りを通じて、どの役職からどの役職にお金が支払われるかを意識し、役職間の関係性に気づけたか。〈観察・ワークシート、関〉

(3) 3時間目 (50分平常授業)

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5分	○前時のワークシートを用意する。	
展開	35分	○前時のワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・双六を行ってみて気になったこと。 ・この双六がどんな目的で作られた・遊ばれたと思うか。 ○指名された者(班から1名)は、気になったことを発言する。 ○本時のワークシートを受け取る。	□前時を欠席した生徒もいるので、どんな双六かをイメージさせる。 □生徒達の状況を把握する。 □前時を欠席した生徒もいるので、発言した生徒の意見は黒板に記録して情報を共有する。 ■双六上の出世動向と実際の幕府の

		<p>○大岡忠相、長谷川平蔵、水野忠邦の出世状況の説明を聞き、ワークシートに記録する。</p> <p>○「明治立身双六」について考察したことを、本時のワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明治立身双六」を観察し、質問事項について記録する。 ・「御大名出世双六」と「明治立身双六」を比較し、その違いをまとめる。 	<p>出世動向との類似点と相違点を把握できたか。〈ワークシート、知〉</p> <p>■江戸と明治の双六作成意図について、時代の差異をとらえて考察しているか。〈観察・ワークシート、関・思・技〉</p>
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・双六授業の感想を書く。 <p>○前時と本時のワークシートを提出する。</p> <p>○次回の予告を聞く。</p>	<p>■ワークシートに感想を書いているか。〈ワークシート、関〉</p>

(4) 4時間目 (短縮 45分授業)

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5分	○配付された資料(前時までの生徒の意見を集約したもの)を受け取る。	
展開	30分	<p>○資料を参照しながら教師の説明を聞く。</p> <p>○本時のワークシートを受け取り、書かれている質問事項に対して、各自の考えを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いマス目から落ちる意味 ・隠居できるマス目の意味 ・隠居から家督のマス目に進むことのできる確率の低い意味 ・振り出しの目で出世の状況が変わる理由 ・この双六がなかなか上がれない理由 	<p>□前時に生徒が書いた疑問点や意見をふまえた説明をする。</p> <p>□机間を巡り、生徒達の状況を把握する。</p> <p>□ワークシートの質問事項は、生徒の疑問点や意見を踏まえたものにする。</p> <p>■教科書や資料集も参照しながら、意見をまとめられているか。</p> <p>〈観察・ワークシート、関・思・技〉</p>
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・この双六が作られた目的について、再度考察する。 <p>○本時のワークシートを提出する。</p> <p>○次回の予告を聞く。</p>	<p>■配付された資料も参照しながら、再考察しているか。</p> <p>〈ワークシート、思〉</p>

(5) 5時間目 (答案指導 30分中の 10分担当)

期末考査答案指導時に、資料(4時間目に提出したワークシートの内容を教師が抜粋してまとめたもの)を受け取り、教師の説明を聞く。ならびに、アンケートに答える。

4. 実践の概要

(1) 平成 27 年度の実践

2 学期末に 1.5 時間配当で実践した。最初の 1 時間で、役職の説明、双六の実践、双六作成者の意図・どんな人が遊んだか・双六の感想等をワークシートに記録させた。次の 0.5 時間（2 学期末考査答案指導時の 20 分程度）では、生徒の意見を集約したものと生徒の出世動向を集約したものとを配付して、教師側から説明を加えた。しかし、双六の実践時間を確保しようとするや役職の説明は余り行なえず、事後指導の時間も授業進捗の関係からほとんどとれなかった。また、生徒がクラスの他の生徒の意見を見て、自らの意見を考え直す時間は設けられなかった。

①実践の様子

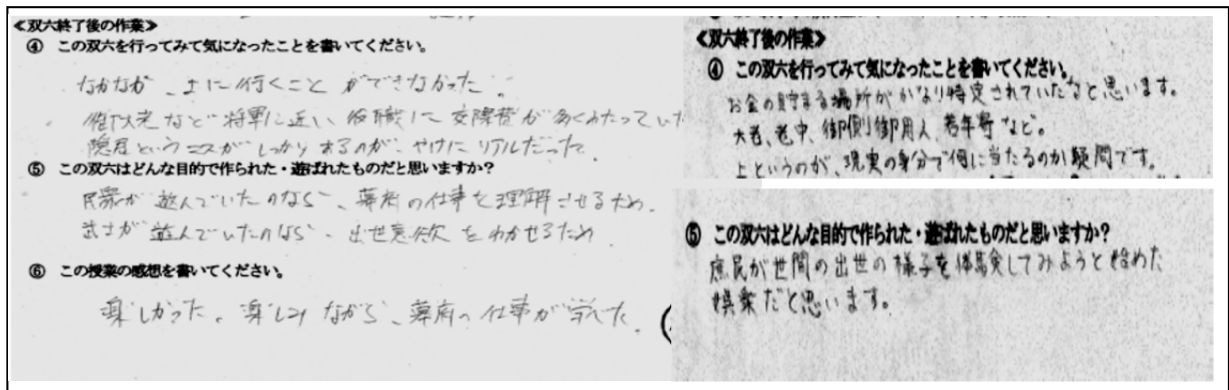


通常の講義形式の授業と異なり、グループ学習の形態であったこともあり、積極的に取り組んでいた。

写真の双六の盤面に置かれているチップは、コマが止まったマス目の指示で渡すことになる交際費（付届け）である。

②生徒の意見・感想等

次のようなワークシートの形式で考察させた。主な意見・感想は下の通りである。



○双六を行ってみて気になったこと

- ・遊び方についての疑問・・・出世や交際費に重点がおかれている、なかなか上がれない、出世までの道のりは遠く出だしが悪いと終わってしまう
- ・記載された役職についての疑問・・・少しの身分差で交際費の出入りが大きく変わった、交際費が集まるのは大老・老中・若年寄に限定された、武道系の役職は下の方にある

○どんな目的で作られた、遊ばれたものだと思うか

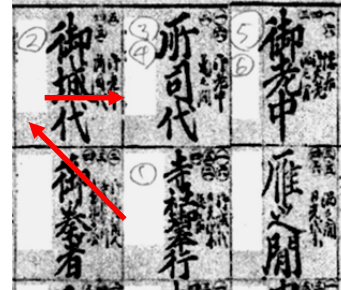
- ・娯楽や皮肉・・・その役職になった気分を味わう人生ゲーム的なもの、役人の気休め、庶民の娯楽、子供の娯楽、大名たちの暇つぶし
- ・教育・・・武士の子供が上下関係や役職同士のつながりを理解する、庶民の子供が武士の役職を覚える、出世の道のりと難しさを知る、子供に上を目指す大切さを教えるため

○感想

身分の関係とあわせて考えられてよかった、最初の役職によって出世が決まるのが面白い、同じ武士なのに貧富差が大きい、思った以上に自然と役職を覚えた、人生の縮図を見た

あるクラスの最初の目が「3、4、5」の例を表にしたものである。今年度は「上」は出なかったが、最初の目が「4」で「寺社奉行」のマス目に進んだ者は全員「老中」まで出世している。一方で、最初の目で「5」が出ると双六の下段のマス目の移動が多かった。また、「隠居」から「家督」のマス目に進んだ場合、再度の出世は厳しい結果となっている。

○実践の様子と出世の軌跡の記録の方法



矢印の様に
コマは
進んだ。
数字は、
サイコロ
を振った
回数。

③事後指導 1 ワークシート作成による考察 (3時間目)

ワークシートに次の4点について意見を書かせた。特に明治期の双六との比較は、江戸の出世双六を考察するよい手掛かりとなったと思われる。主な意見は次のとおりである。

(この意見を集約したものは、4時間目で生徒に提示した。)

○双六を行ってみて気になったこと。

お金の集まるところが限定、下の役職の出費が大きい、交際費を払わない役職もある、最初から高い位の人が高い位で終わる、動くマス目と元のマス目との役職との関係は何か、出世が難しい(上がれない)、最高職が大老なのは何故、振り出し時点で役職が異なる

○この双六がどんな目的でつくられ、またどんな人が遊んだと思うか。

家柄の重要性を武家の子供たちに伝える、将来幕府の役職に就く予定の者が遊んだ、出世の仕方や交際費の集まる役職を大名以外の民衆にも知らせるため、今の人生ゲーム、子供達に出世ルートとその過程での付き合いを学ばせる、実際の身分に関係なく遊んだ、庶民が上級職の関係性を想像して作らせ遊ばせた、将来の占いとして遊んだ

○「御大名出世双六」と「明治立身双六」との相違点は何か。

「御大名出世双六」…役職に就くような人が対象、最初の目で決まる、なかなか上がれない、身分が関係する、決められた通りでしか出世しない、自分の意志だけでどうにもならない
「明治立身双六」…スタート時の平等性(お金の有無のみ)、身分で職が分けられていない、人の一生をテーマにしている、身分に関係なく本人の自己責任で職業を自由に決定できる、本人の志と生活態度次第で上がれる

○双六授業を行った感想

出世の道筋など自然な形で知ることができた

出世できたからといってお金が貰える訳でない

周りはお金が無くなっていく中で自分は減らずその時代の身分差が感じられた

双六からでも時代の違いが発見できるのだと感じた

どの仕事だと上りに近づけるのか目に見えてわかった

偉い役職に就くのは難しく交際費がかかる

なかなか上がれないから楽しみが目的ではない

④事後指導2 ワークシート作成による再考察（4時間目）

3時間目で書かせた生徒の意見をクラスごとに集約したもの、出世の軌跡を提示し、共通している疑問点や意見について教師側から紹介して説明した。その後、生徒が指摘したことをふまえて双六の特徴を質問事項として設定して（「なかなか上がれない」という指摘に対し「なかなか上がれないのは武士社会のどんなことを表現しようとしたのか」という問い等）、教科書も参照させて各自の意見を書かせた。最後に、「この双六がどんな目的でつくられ、またどんな人たちが遊んだと思うか」という問いを再度発し、各自の意見を考察させてまとめとした。（5時間目で提示した。）

生徒の疑問や感想を元にした質問事項に関する生徒の主な意見

○双六で高い地位から落ちるのは何を示したかったのか？

常に高い地位でいられる保障がない、汚職や失策での失脚を示した、出世の難しさ、高い地位にいるからといって油断してはならないという警鐘

○隠居となるマス目の意味

重要な役職（改革を行ったり将軍と直接関わる）、各身分や職の最終段階、これ以上の出世は殆ど無い最高権力職、ある程度高齢者になる職、子どもに継がせられる職

○家督のマス目で交際費を関係各所に払うのは？

親が築いてきた関係の維持とともに自分をアピールする、家を継ぐ時に世話になったもの、交際費を支払う相手が権力を持っている者だから出世をとりつけるためでは、これから世話になる可能性があるもの、挨拶代わり

○隠居から家督のマス目に進めるのは「3」だけなのは何故か？

跡を継がせることの難しさを知らせる（出来のいい息子とは常に限らない）、隠居に長く居座り続けたことを示す、跡継ぎ問題を示したかったのでは、目を出にくくすることで家を継がせるのに時間がかかることや成長の様子を示す

○振り出しの目で出世状況が変わるのは何を表現したかったのか？

家柄や身分で出世できるかがほとんど決まっていた（努力次第で変えられることは少ない）明治のように自分の意志が反映されず将軍など上の立場の人次第で立場が変わる身分によりなれない役職がある、最初の役職でその後の出世が決まる

○この双六でなかなか上がれないのは武士社会のどんなことを表現したかったのか？

身分社会がはっきりしていた、血縁や家柄の重視、出世するにはお金も時間もかかる、簡単に出世ができないことにより身分をわきまえることの自覚、上下関係の厳しさ

○再度、この双六はどんな目的で作られた、遊ばれた（誰が遊んだ）と思うか？

身分の低い者が、双六の中だけでも夢を見たいと思い遊んだ

自分の出世を占うため、子供に多く遊ばれた

下層の大名が子供に高い役職に就かせようとするために分かりやすく出世の道を示したたくさんの役職の中で上の位に就く難しさを子供達に教えるために遊ばせた

身分の高い人が子供に簡単に役職のことを教えるため

この時代を投影し、記録として残すため（娯楽にしては難しすぎる双六だから）

武士社会の格差・身分差・出世方法など当時の武士社会の姿を民衆に見せるため

⑤意見の紹介（5時間目）

期末考査答案指導時の10分間程度を用い、4時間目の授業で生徒が再考察した意見を集約した資料を配付して説明した。また、生徒に無記名でのアンケートを実施した。

5. 成果と課題

(1) 成果

・江戸時代の職制や江戸時代の学習に対する興味・関心の喚起

平成28年度の事後アンケートでは、「通常形態の授業の時と比較して、江戸時代の職制の学習は深まったか」という問いに対して9割強（深まった54.5%、やや深まった38.6%）、また「江戸時代の学習への興味がわいたか」という問いには8割弱（わいた31.8%、ややわいた47.7%）の高評価が見られた。これは、自由記述欄の「通常授業で言葉だけで習うよりも、双六の使用でより楽しめ、自然と役職の流れやお金の集まる場所も分かった。参加型・体験型の授業のやり方はわかりやすくてよい。」という意見からも、生徒が授業参加した実感が大きかったことによると思われる。

・思考の深まり

生徒が授業参加した実感が得られた理由には、教師側から伝えていたことに生徒自らが気づき、考察したこともある。ある生徒は、「御大名出世双六の作成目的、遊んだ主体は」という問いに対する「楽しむため、出世のためのコースを知るため」という最初の考察が、再度の考察では「娯楽もあるが、出世の仕組み・お金の流れる仕組みを学び、庶民や武士の子どもの学習の場としても使われた」と深まっている。他生徒からも、「娯楽としては難しい、時代の記録に利用した」という意見が新たに出た。これらは、生徒の疑問をフィードバックして質問事項にしたことに加えて、博学連携研究会の助言を受けて時代の異なる双六を比較させたため、時代背景を意識して、より深い考察ができたためだと考えられる。他の質問事項に対する生徒の考察でも、「なかなか上がれない理由は何か」に対する「簡単に出世ができないことで身分をわきまえる大切さを教える」、「隠居から家督のマス目に進めるのが一つだけなのは」に対する「跡を継がせる難しさ（できのいい息子がいない、子供が成長していない）」という意見もあり、双六学習の中から江戸時代の特徴に気づけた者も見られた。

生徒の考察や感想を見ると、江戸幕府の職制の学習に双六を用いたことで、役職の名称だけではなく、要職が何か・役職間の関係性・身分差・時代背景についても理解が進んだことがわかる。〈知識・理解〉の観点だけではなく、他の三つの観点からも単元目標達成に少し近づける実践になったと思う。

(2) 課題

・時間の精選

昨年度の反省もあり、平成28年度の実践では本テーマに実質4時間を配当した。確かに、生徒から出た疑問に説明を加えて問いにし、繰り返し考察させたことで、従来では教師側から教授していた内容にも生徒が気づいて解答できることも見られた。しかし、生徒の意見のフィードバック方法を工夫し、考察等を自宅での課外学習とすることで、2～3時間程度の実践も可能だろう。

・資料の性格

「御大名出世」と言いながら、今回用いた資料は旗本以上の武士の出世の双六となっているので、授業の際にはより意識しながら用いる必要があると思われる。

・双六の教材化

2年間の実践では、双六体験を通じて双六作成者の意図を考察し、時代背景に目を向けさせることを試みた。今回の双六以外にも、歴博には江戸時代以降のものが多様なテーマや時代にわたって収蔵されており、館蔵資料画像データベースからも容易に利用できる。また、双六を実際に実践させなくても、資料として提示して考察させるのであれば時間的な制約も少ない。この報告の副題通り、より利用しやすく、教材化できるのではないかと思われる。

6 主要参考文献ならびに使用したワークシート等

(1) 主要参考文献

- 大久保純一「歴史の証人 収蔵品紹介 絵双六」 (『歴博 163号』 2010年)
- 高久智広「出世双六にみる幕臣の出世」 (『国立歴史民俗博物館研究報告 182号』 2014年)
- 増川宏一『すごろく I』『すごろく II』 (法政大学出版局 1995年)
- 山本正勝『絵すごろく 生いたちと魅力』 (芸艸堂 2004年)
- 『武士とはなにか』 (国立歴史民俗博物館 2010年)

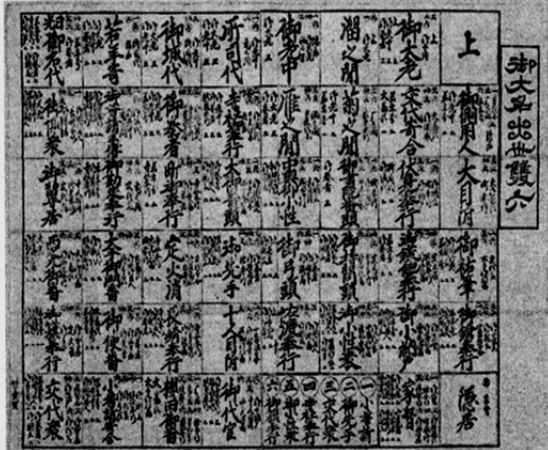
(2) 使用したワークシート等

① 1時間目に使用したもの

日本史プリント NO49 (2学期) 第三部 近世 (3)年 G組

1 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立

(2) 幕藩体制
② 江戸幕府の職制を知ろう



Q【上の資料は?】
江戸幕府の職制...江戸時代後期(詳細な作成年代は不明)に作成されたと思われる。
R【資料をよく見て、知ったことや思ったことを二つあげよう】
1) 720の中心数字がたくさん書いてあるのは何? 阿波守浪
2) 720と書いてある数字の720が違つ

C【資料に出てくる役職や職名にはどんな意味があるの...空欄の役職名を記入しよう】

＜最上段右から＞

1 大老	政治全般を統括。常には置かれない最高職。	階級大名	万石以上
2 幕之助	江戸城の黒幕院座之助。臣下(大名)に与えられた最高の座敷。家門・御家門・階級の名家が該当する。		
3 名中	通常の幕府最高職。政務統括。月番交代で勤務した。	階級大名	25000石以上
4 所代	大坂所代。京都(天皇・公家)護衛。西国大名の監獄。	階級大名	万石以上
5 幕代	大坂幕代。大坂幕府の統括。	階級大名	万石以上
6 老中	老中補佐。旗本・御家人の統括。	階級大名	万石以上
7 日光名代	日光東照宮(神格化された家康を祀る)へ代わりに参詣する。		

＜三段目右から＞

1 御用人	將軍御用。將軍の命を老中に伝える。	階級大名	万石以上
交代寄合	上級旗本無役者・布衣以上の退職者(役寄合)の家格。		
幕之間	小大名。大番頭。御殿番頭。小姓組番頭などの惣領者の座敷。		
座之間	「座之間」(「御殿の間」)に詰める大名以外の階級大名の座敷。		
6 寄合奉行	全国の寺社と寺社職の新職を受理し、宗廟関係を統括する。	階級大名	万石以上
御奏者	大名や旗本の將軍御目見えや献上品などを司る。	階級大名	万石以上
御首領手伝	階級大名に命じて行なわれた大規模な土木工事のこと。		
御御衆	將軍と老中・若年寄などの取り次ぎを行う。	旗本	5000石

＜三段目右から＞

7 大目付	大名・旗本。老中以下階級人の監獄。	旗本	3000石
伏見奉行	遠近奉行の一つ。伏見の段敷や守備。伏見・木津の藩川船運統括。	旗本	
御書院番頭	將軍を警護する親衛親衛隊の統括。	旗本	4000石
中興小姓	將軍に近侍し、諸役の補助を管掌。	旗本	
大御番頭	大坂城・幕府城・江戸城・江戸市中警備。	旗本	5000石
町奉行	江戸市中の行政・司法・警察を司る。	旗本	3000石
9 御奉行	幕府の租税徴収。幕府財政の運営。配下に郡代・代官。	旗本	3000石
御留守	大奥統括。江戸城御門の進行統括。	旗本	5000石

＜四段目右から＞

御給番	公文書や記録を作成する事務官。	旗本	200俵
御殿統奉行	二条城と大坂城に置かれ、御殿に詰ることを司る。	旗本	
御侍頭	御殿番の長で將軍を警護する。	旗本	1500石
御弓頭	弓足輕を統率する。	旗本	1500石
御先手	將軍外出時の警備。江戸城下の治安維持。	旗本	1500石
定火消	江戸の防火担当。	旗本	300人
大手御門番	大手門警備役。	旗本	
西之丸御番	西之丸の警備。	旗本	

＜五段目右から＞

御給奉行	總に關する事務。旗本の名譽職の一つ。	旗本	2000石
御小納戸	將軍の日常の身の回りの世話をする。	旗本	500石
御小姓衆	將軍身辺の補用・將軍警護。	旗本	500石
佐渡奉行	遠近奉行の一つ。金山のある佐渡の警備。	旗本	1000石
十人目附	江戸城内外の運送。非常時の遊記。	旗本	1000石
10 長崎奉行	遠近奉行の一つ。貿易港長崎の警備。	旗本	1000石
御使番	職制において伝令や監察。將軍への使者などを務める。	旗本	1000石
御旗奉行	御旗にて旗指物の管理を行う。旗本の名譽職の一つ。	旗本	2000石

＜最下段右から＞

11 代官	小藩の旗本の知行地と天領の事務を司る。	旗本	150俵
櫻田御番	桜田門の警備役。	旗本	
小普請組合	禄高三千石未満の旗本・御家人のうち、無役の者。	旗本	
交代衆	三千石以上の上級旗本無役者・布衣以上の退職者の家格。	旗本	

d【旗の中の役職の中で、自分の知っていた役職や聞いたことのある役職名等に○印をつけてみよう】

江戸幕府発足当初は職制が単純だったが、徐々に整備される様々な役職が置かれた組織となった。役職は、大名役と旗本役に分かれていた。旗本役は、さらに役方(行政官)と番方(武官)とに分かれていた。軍事組織を平時に転用したため、一つの役職には複数の者が任じられ、月番交代での勤務を行うことになった。では、どのように役職を武士たちは組みあけていったのでしょうか?

② 2、3時間目に使用したもの

日本史プリント N050 (2学期) (C)組 第三部 近世

(2) 幕藩体制
② 江戸幕府の職制を知ろう その2

【御大名出世双六】

1) 右図に、サイコロを振ったあと止まったマス目(出世の経緯)を①②③…の順に記録する。
例 振り出して「4」の目⇒寺社奉行のマス目の白いところ⇒① 次に「3」の目が出た⇒寺社奉行のマス目に②、次に「1」の目⇒御代々のマス目に③

2) 双六終了時の所持金は(40)圓、最後の役職は(所司代)

3) この双六を行って、知ったことを書いてください。
出世が決す。下層者があるのとは違って程々紹介して、階格して行くのとは別。上層者。

4) この双六はどんな目的で作られた・遊ばれたものだと思いますか?
役職ごとのメリットをわかりやすく理解するため。破産して行く方法を学ぶため。

5) この双六の(双六を行った)感想・考えたことを書いてください。
黒板やプリントだけでは頭に入らず、このように役職の名前や付組みが楽しめたりから見えることができたので良かったです。難しい漢字が下々見えていて場所を探して、読み取らなければならぬので楽しかったです。江戸の双六と明治の双六では役職も全く違う時代の流れが感じられました。

【双六のルール】

- 一人所持金50圓(チップ50枚)とする。
- 振り出し(○の記号がある場所)からサイコロを振り、指示に従って「上」を目指してコマを進める。
- それぞれのマス目では、マス目の左側に書いてある指示に従って、該当する役職のマス目に交際費(配付されたチップ、チップの色は違っても構わない)を置く。
- マス目に書いてある交際費一枚目は、そのマス目に現在止まっている者もしくは置いてあるマス目に最も先に止まった者が買うこととする。
- マス目に置かれていないサイコロの出ない場合は、そのままの位置から移動しない。
- 移動できずに同じマス目にどまってしまった場合は、2回目に同じに該当する役職のマス目に交際費を置く必要はない。
- 1) 「上」のマス目に進み、アガリとなった者が一人でも残った時点
2) 交際費の支払いができず所持金がゼロとなった者が一人でも残った時点
3) 双六開始の時間が 分を経過した時点 といった1)~③の場合に、双六は終わりとする。

出世の経緯を記録しよう!

このスペースに①②③と記録していく

一例: 所司代 (御代々) (御奉行) (日光御代々) 40チップ

③ 3時間目に使用したもの

日本史プリント N051 (2学期) (D)組 () 第三部 近世

(2) 幕藩体制
② 江戸幕府の職制を知ろう

【「御大名出世双六」を行って気になったこと…どんな意見があったか…】

「上」に行くのに時間がかかった。際限からぬけられない。上層ほど金が入る。仕事にお金も払う量がちがう(下層ほど払う)。払うお金の基準はどうかで決まる? サイコロの目が出て勤める役職とやるでない役職。若年寄とか大老とかにお金が集まった。

【有名人の出世状況は…】 …あくまでも…

- 長谷川平蔵 (人足寄場の設置を松平定信に進言) 書院番→徒頭→先手弓削退頭
- 水野忠邦 (天保の改革を主導) 御奉行→御城代→京都所司代→御老中
- 大岡忠相 (享保の改革で徳川吉宗より抜擢) 寄合→書院番→徒頭→持弓備頭→先手弓削退頭→使番→目付→小普請組支配

【明治の出世双六と天保期に行った江戸時代の武家の出世双六とを比較してみよう】

「明治立身出世双六」…明治31(1898)年に幸田露伴『五重塔』の作者)により製作されたもの。

- 「振り出し」のマス目から次に進めるマス目は、(貧)か(富)のどちらかである。
- 「貧」と「富」のどちらのマス目に進んでも、(立志)のマス目に進むことができる。
- 「立志」のマス目では、(師)・(農)・(工)・(商)・(文)・(武)のマス目を(自分の意志)選ぶことができる。しかも、どのマス目を選んでも、「多欲」「怠慢」「墮落」「悔後」「僥倖」か「守節」「自得」のマス目に進むこととなっている。つまり、どの職業を選んでも、その後の(生活態度)の違いにより出世状況は変わるしかけてはならない。
- 最終的に「上り」のマス目に進むためには(積善)もしくは(自得)のマス目に進まなくてはならないことが分かる。…「上り」から逆にたどって調べてみよう…
- 「御大名出世双六」と「明治立身出世双六」には、どのような違いがありますか。時代の特徴も踏まえ考えてみよう。
「明治立身出世双六」には絵が加わった。自分の意志で決められるマス目が出てきた。どのサイコロの目が出てきてもどこかしらに進める。自分の頑張りによって出世状況が変わる。幕府がなくなったから役職がなくなり、師とか農とか職業はなくなった。気持ち(悔後とか慢怠とか)が入った。

④ 4時間目に使用したもの

日本史プリントNO53 (2学期) (V)組()

(2) 幕藩体制 (2) 江戸幕府の職制を知ろう...再度「御大名出世双六」を考える。

Q1 双六で高い地位から急に落ちる場合があるのは、何を示したかったと思うか。
何かミスとかかしたり大変な問題と
起った場合

Q2 お金(交際費)が集まる若年寄、老中、側用人は幕府の中でどんな仕事をしているか。
教科書と資料集を使って調べてみよう。

若年寄 老中の補佐
榎本御家人の統率

老中 常置の最高職で「政務」を統括

側用人 将軍の側近
将軍の命を老中に伝える

Q3 隠居とは、引退すること。家督とは跡継ぎの身分に伴う権利と義務のことである。ゆえに、隠居のマス目から家督のマス目に動くのは、子供にその家を継がせたことを意味する。

① そうだとすると、隠居となるマス目、「御老中・若年寄・寺社奉行・御側用人」というのはどんな職を意味することになるだろうか。
ある程度高齢者がやる最終職

② 家督のマス目で、関係各所に交際費を支払うのはなぜか。
あいつがわり、
関係を保つため

③ 隠居のマス目から家督のマス目に進めるのは「3」だけであった。このことは何を表現したかったか。
子供に家を継がせられる人間は少いからということ

Q4 双六の振り出しの目でその後の出世の状況が変わってしまう設定としたのは、この双六の作成者が武士社会の中のどんなことを表現したかったからか。(明治立身双六と比べよう)
自分の意志と関係なく、身分、
道が決まらされていること

Q5 この双六でなかなか上がれないのは、武士社会のどんなことを表現したかったからか。
上下関係、
出世が競争の厳しさ

Q6 再度この双六はどんな目的で作られた、遊ばれた(誰が遊んだ)と思うか。
娯楽もあるものの、
出世の仕組み、お金の流れを仕組を学び
庶民や子供が学習の場としても使われたのではないかと。

⑤ 5時間目に配付したものの一部

日本史プリントNO57 (2学期) 第3部 近世 (3)年()組()番()

「御大名出世双六」についての最終考察

授業で江戸幕府の職制を理解する目的で行った双六について、みなさんが再度考察してくれた主な意見を以下に紹介いたします。

Q1 双六で高い地位から落ちるのは何を示したかったのか?

・常に高い地位でいられる保障がないこと (C 女子)
・汚職や失策での失脚を示したのでは (C 男子)
・高い地位にいるからといって前断してはならない (D 女子)
・出世の難しさ (E 男子)

Q3① 隠居となるマス目の意味

・重要な役職 (改革を行ったり将軍と直接関わる)
・各身分・職の最終段階、これ以上の出世は殆ど無い、最高権力職
・ある程度高齢者がなる職
・家督を子どもに継がせることのできる職

Q3② 家督のマス目で交際費を関係各所に払うのは?

・挨拶代わり、親が築いてきた関係の維持とともに自分をアピールする
・交際費を支払う相手が権力を持っている者、出世をとりつけるためでは
・家を継ぐときに世話になったもの、これから世話になる可能性があるもの

Q3③ 隠居から家督のマス目に進めるのは「3」だけなのは

・跡を継がせることの難しさを知らせる (出来のいい息子は常に限らない)
・隠居に長く居座り続けたことを示す
・跡継ぎ問題を示したかったのでは
・目を出にくくすることで、家を継ぐのに時間がかかる、成長の様子を示す

Q4 振り出しの目で出世状況が変わるのは何を表現したかったのか?

・家柄や身分で出世できるかがほとんど決まっていた (努力次第で変えられることは少ない)
・明治のように自分の意志が反映されることはなく、将軍などの上の立場の人次第で立場がころころ変わったりする
・身分により慣れない役職がある
・最初の役職でその後の出世が決まってしまう

Q5 この双六でなかなか上がれないのは武士社会のどんなことを表現したかったのか?

・身分社会がはっきりしていた
・血縁や家柄の重視
・簡単に出世ができないことで、身分をわきましろということを表現したかった
・上下関係の厳しさを伝えたい
・出世するのにお金がかかる、時間もかかる

Q6 再度、この双六はどんな目的で作られた、遊ばれた(誰が遊んだ)と思うか?

先に書いてもらった意見が多かったのは、1)学習 2)娯楽 3)占いが中心でしたが、みんなの意見もみてみてどう変わってでしょうか?...専門家は、1)武士の子供の学習用 2)正月に配布されていたのではとも言っていますが...果たして

C	1	位の低い大名が出世を夢見て遊んだ
	2	役職を理解するため
	3	庶民が遊んだ
	4	上の身分の人が身分格差・お金との関係をはっきりさせるために作られた
	5	高い位の人が子供に職などを教えるため
	6	運だめし
	7	大名などの子供たちが将軍、その他の役職に就いたら誰にお金を払うべきかなどを学ぶため
	8	身分が高い人が息子などに、簡単に役職のことを教えるため
	9	身分が下の人たちに「どれだけ頑張っても上までいけない」ということを身分が上の人たちが見せて教えて、あまり新しいことやへんなことをさせずに、自分たちは安全に暮らそう見たいな感じにしようとした
	10	出世の難しさや位の高い職に就いても、簡単に没落する社会を、位の低い大名が風刺して遊んだ
	11	幕府と縁違い庶民が内部を知るため、もしくは子供への教育、高位の威厳を出すため
	12	庶民や身分の低い人にとつたらなかなか上に行くことは難しく、あこがれであったため、少しでも夢を見て楽しむために作られた
	13	身分の低い者、中間くらいの者たちが、双六だけでも夢を見たいと思ったので、上の立場の者たちへの皮肉をこめて
	14	出費の多い職に就いた者が不満を持ったり、良い職への憧れや持っているから、遊びとして行えば解消までは行かなくても発散できる目的
	15	武士社会の厳しさをゲーム方式で学ぶため、地位の高い人も低い人も遊んだと思う
	16	大名たちの遊び
	17	ある程度金や権力が庶民よりある人々に遊ばれた、勉強する余裕がある人々が作った。多分町人あたりが作った。農民は作れない気がする。
	18	町人・村人が大名の役職や大変さ、しくみなどを学ぶために遊んだ(遊ばされた)
	19	特に下層の大名が子供に高い役職に就かせようとするために、子供でも分かりやすく出世の道筋を示した
	20	大名たちや身分の高い人によるギャンブル
	21	「上」に上がることがめったにできない人生は運次第であることを武士が風刺して作った。世間にはあまり出回らなかつたと思う。
	22	たくさんのお金がある中で、上の位になるというものはどんなに難しいのか、上の位を目指さないと自分がどのくらいのお金を出費しなければならぬかなどを学ばせるために、子供達に遊ばせた
	23	武士社会の格差・身分差・出世方法など、当時の武士社会の姿を民衆に見せるため。